



## 教皇様の聲

# 10

234号

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticanoの転載許可済 ©1999

## 新しい天と地を待ち望む

教皇様は5月16日の一般謁見で、御父に至る人類の歩みについてお話しになった。

1 大聖年準備のための最後の年である今、私たちのテーマは、御父に至る人類の歩みを考えるということです。それは、終末論の見方、つまり、人類の最後を黙想しなさいという勧めです。現代は特に、科学技術の諸発見や報道機関の影響で物事が信じられないスピードで進んでいきます。その結果、私たちは自然に人類の行く先や最終目標が何であるか自分自身に問いかけることとなります。神のみ言葉はこの問いに明確な答えを与え、御父が歴史の中で聖霊の働きによってキリストを通して勧める救いの計画を示してくれます。

人類の最終目標は新たなエルサレムである旧約聖書で考えるべき箇所は、約束の地へ入ることに焦点を置く出エジプト記です。出エジプト記は歴史的出来事であるだけでなく神が啓示する救いのみわざでもあります。そしてその神の啓示は、預言者たちが現在と未来のイスラエルに光を当てる努力をすることで徐々に達成されていきます。

2 異国をさすらう間、預言者たちは約束の地への帰還という新しい出エジプト(脱出)を予言します。この新たな国の賜物によって、神は国々に散らばった人々を集めるだけでなく、一人一人の心を変えます。つまり、愛し行動する能力をお与えになるのです。「わたしは彼らに一つの心を与え、彼らの中に新しい霊を授ける。わたしは彼らの肉から石の心を除き、肉の心を与える。彼らがわたしの掟に従って歩み、わたしの法を守り行なうためである。こうして、彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。」(エゼキエル11・19-20; 36・26-28参照)

神との契約で定められた規準を守る努力をすれば、人類は初めに神が創造したような環境で生活できるようになるでしょう。「荒れ果てていたこの地がエデンの園ようになった。荒れ果て破壊されて廃墟となった町々が、城壁ある人の住む町になった。」(エゼキエル36・35)これは、人々の心に刻まれた法への従順さの中にはっきりと表れ、新しい契約となります。(エレ

ミア31・31~34参照)

そして、地平線は広がり、新たな国が約束されま。最終目的は、新たなエルサレムであり、イザヤの預言書にあるように、そこではいかなる争いも行なわれません。「わたしは新しい天と新しい地を創造する。... エルサレムを喜び踊るものとして、その民を喜び楽しむものとして、創造する。わたしはエルサレムを喜びとし、わたしの民を楽しみとする。泣く声、叫ぶ声は、再びその中に響くことがない。」(イザヤ65・17-19参照)

3 黙示録はこの情景を示します。ヨハネは次のように書き示しています。「わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。」(黙示録21・1-2)

新たな創造へ歩むには、聖性を目指す努力が要求されます。ところでその聖性は、ペトロの第2の手紙によると、根本的な変化のことを指しています。「このように、すべてのものは滅び去るのですから、あなたがたは聖なる信心深い生活を送らなくてはなりません。神の日の来るのを待ち望み、また、それが来るのを早めるようにすべきです。その日、天は焼け崩れ、自然界の諸要素は燃え尽き、溶け去ることでしょう。しかしわたしたちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです。」(2ペトロ3・11-13)

4 キリストの復活、昇天、再臨の知らせは新しい終末論的展望を与えてくれました。最後の晩餐の時、イエスは次のように話されます。「あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなた方もいることになる。」(ヨハネ14・2-3)そこで聖パウロはテサロニケ人へ書き送ります。「すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれ

て死んだ人たちが、まず最初に復活し、それからわたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることとなります。」(1テサロニケ4:16~17) 世の終わりがいつかは知らされていません。天に昇られたキリストを忍耐強く待たなければならないのです。イエスは、使徒たちにイスラエルの国が再建されるのはいつかと尋ねられたとき、宣べ伝え、証言するように招きながらこうお答えになりました。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」(使徒行録1:7~8)

キリストが来られるとき、新しい創造にあずかる  
5 落ちていて希望を抱き、最終的にキリストが御父に引き渡す国を今築きながら、世の終わりを待た

なければなりません。「次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。」(1コリント15:24)キリストの力を得て、敵の勢力に打ち勝ち、新しい創造にあずかります。その創造とは、全てのものの源に被造物が完全に立ち戻るとき達成されます。「すべてが御子に服従するとき、御子自身も、すべてを御自分に服従させてくださった方に服従されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです。」(同上15:28)

したがって、「わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。」(フィリピ3:20)ということを確認すべきです。地上に、永遠に続く国はありません。(ヘブライ13:14参照)永遠の住み家を求める巡礼者として、信仰をもって歩み続けた太祖たちのようにより良い国「すなわち天の故郷」を切望しなければなりません。(同上11:16)

(1999. 5. 26)

## 祈りは司祭の生活に統一性をもたせる

教皇様、メキシコにて第3回国際司祭会議参加者へ書き送る

「キリスト教的社会は、よく祈る司祭の証言によって豊かにされます。よく祈る司祭とは、言葉と生き方で神の秘義を示すものです。」教皇様は第3回国際司祭会議に参加した人々へのメッセージの中でこう書き送った。会議はメキシコ、テベヤクのグアダルーベの聖マリア大聖堂で行なわれた。

1 司祭職において兄弟である皆さんには消えることのない印章が刻み込まれています。それは、皆さんの全生涯にはっきりとした司祭としての身分(司祭のアイデンティティー)を与えるものです。また、特別な方法で、皆さんを頭であるキリストにかたどらせます。皆さんは、現代の人々のために全ての信者の最高の牧者である主の生きる姿となるよう召されています。生涯を通して、司祭という歩みの中で出会う全ての人が、皆さんの中に主の姿を見つけるようであればなりません。それは、グアダルーベの一節、ニカン・ノボウアを見ると分かります。至聖なる処女マリアはファン・ディエゴに次のように語りかけられました。「ファン、あなたはどこへ行こうとしているのですか。」そしてファンは、こう応えます。「私の貴婦人、女王、喜びであるマリア様、私はメキシコのトラテロルコにある、あなたの小さな家に行きます。主の姿にかたどられた司祭が与え教えた、神に関する事柄のお世話をするためです。」

洗礼を受けたものが皆、キリストの司祭職に参加するということは、よく分かっていることです。ところで、信者の共通司祭職と職位的または位階的司祭職とは、段階においてだけでなく、本質においても異なるものですが、相互に秩序付けられています。([教会憲章]10参照)主は、信者たちが一つの体に結合するように、信者の中のある人々を役務者に制定し、叙階の聖なる機能を授けられます。この体のなかでは、すべての構成員が同じ働きをするわけではありません。([司祭の役務と生活に関する教令]2参照)

皆さんはキリストの印のおかげで、自分自身、つまり体と靈魂をかけて神の国の存在を人々に告げ知らせるために主の所有物になったのです。これは、常に心に抱いておくべきことです。そして、「自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ」(マルコ3:14)るためにキリストが最初の弟子たちをお呼びになったことを思い出すのです。救いをもたらすみことばと聖霊の力を与えてご自分の名において使徒たちを宣教に送り出します。その結果、「あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ」(マタイ10:40)ると、はっきり説明できるのです。

2 皆さんは、その秘跡的印章によって、福音を宣べ伝えながらキリストの使命を続けられるようになります。皆さんを通して、キリストはご自分の群れを

導き教え、皆さんが行なう聖なる行為を用いて、あがないの犠牲を捧げ、罪を赦し、恩恵をお与えになります。

神である先生の使命を実行に移すのは皆さんです。神に関する事柄を人々のために行ない、キリストの役務を生き生きと続ける者として、神は皆さんを永遠からお選びになりました。（ヘブライ5:1参照）聖クリゾストムは司祭職について、次のように述べています。「もし神が司祭を通して働かれなかったとしたら、あなたは洗礼を受けていなかったことになり、秘義に参加せず、またキリスト教徒でもなかったことだろう。」（[テモテ2:2-4の2]に関する説教）

皆さんを遣わした御方を心にとめ、皆さんが受けた使命に気を配ってください。「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」（ヨハネ20:21）というイエスのみ言葉が心に響きますように。使命を託された皆さんは、イエス・キリストの仕事を果たせるように、力と権威と威厳を授けられ、新約の福音化を進める最前線に位置しています。

困難に直面したとき、仲介者である聖霊が助言を与え、支え、いかなる障害をも克服する強さを与えてくださることを決して疑ってはなりません。それゆえ、神の力に信頼し、安心していてください。頻繁で長い祈りの中に慰めと安らぎを体験しますように。司祭の生活は果たすべき仕事が多くて、ばらばらになってしまう危険を大いにはらんでいます。しかし、祈りによってその生活に統一性を持たせることができるのです。祈りは司祭の生活を本当のものにします。キリストのみ心から、仕事を動機づける心を引き出すからです。恐れずに祈りに時間と精力を傾けてください。熱心な祈りをする人になるように、本気で努力してくだ

さい。そして黙想の沈黙を楽しみ、敬虔に毎日の聖体を祝い、教会がキリストの体全体のために委ねた教会の祈りを大切にすることです。言葉と生き方で神の秘義を証言する司祭の祈りによってキリストの共同体は豊かになります。したがって、司祭の祈りは司牧的な役務の条件なのです。

3 司祭職における兄弟の皆さんの使命はまことに尊く、したがって、良い牧者のように、賢慮と寛大さをもって信者の世話をしよう自分自身を思い切り捧げなければなりません。たくさんの司祭が、神や兄弟たちに仕えるため自己を捧げ尽くしていることは慰めです。聖なる神の民は皆さんを愛し、その犠牲の価値を認め、その献身と牧者としての奉仕に感謝しています。誤解や恐れ、時には様々な迫害でさえも、自己を捧げ、聖なる司祭職の中で示す熱意をさますことがありませんように。皆さんは、世界と悪にうちかつイエスを代表しているのですから、恐れないうでください。初めの頃の司祭職の熱意を消さないように、そしてがっかりしないでください。同じ秘跡から力を引き出す兄弟である司祭を助け、互いに支え合ってください。

4 この会議では「改心させるために改心すること」「聖体拝領においてさらなる一致に励むこと」「処女マリアと共に福音宣教を」という3つのテーマに焦点を当てることとなります。これらのテーマを熟考し研究することによって、良い結果に到達できるでしょう。特に、もう間近に迫っている大聖年準備への意識を高めることにもなります。時が満ち、大聖年の聖なるドアを通して「受肉と、全人類の救いの秘義である神の御子のこの世への到来を祝う」（[紀元2000年の到来、40]）ために。

## 教皇様の動き

●1・7 トルンにあるニコラウス・コペルニクス大学で、教皇様は、13人の大学学長を含むポーランドの科学者、大学の代表者たちと会談した。教皇様は、愛と希望、「信仰と理性との間に常に存在する緊張」に焦点をあててお話しになった。

創立50周年を祝ったばかりのコペルニクス大学の歴史を振り返った後、教皇様はこう語られた。「世紀の変わり目にいるということで、過去と未来へかわるがわるの思いが向かいます。人間は、未来への教えや指示を過去に求めることで、希望がより明確で確固とした基盤を持つものになるよう望みます。今日、世界は希望を必要とし、希望を求めてもいません。けれども、戦争や犯罪的全体主義イデオロギー、強制収容所、収容所列島に見られる今世紀の悲劇的な歴史を考えて、簡単に落胆や失望の誘惑に

陥ることはないでしょうか。（...）希望を見つけるためには、目を高く上に向ける必要があります。」

私たちはキリストに向かわなければならない、と教皇様はお話しになる。「キリストは人類に、神について、同時に人間についての最も深い真理を示してくださいました。神は愛である。（...）それは今回の祖国ポーランド訪問のテーマでもあります。（...）贈物であるこの愛は、創造とあがないを通して人類に与えられるものです。「神は愛である」というこの真理は、世界の希望の源となり、私たちが取るべき責任を指し示します。人が神を愛することができるのは、神が最初に人間を愛してくださったからです。（...）神の愛に関する真理は、真理への探求、仕事、学問の発展、あらゆる文化にも光をもたらします。学者の業績、歴史家の意見、芸術家の創造力、科学者の発見といったも

のは、全くとつともない速さで成長していきます。したがって、それらに意味を持たせ、一つの方向に統一するために、研究や仕事には道案内になる考え方、基本的な価値観が必要となるのです。」

教皇様は「コペルニクスの町」で行なわれた今日の会話を振り返り、ポーランド人宇宙飛行士が発見したことに関して、次のようにお話しになった。「理性と信仰との間に常に存在する緊張が思い出されます。（…）理性と信仰の分裂は人類の大きな悲劇です。原因はたくさんありますが、中でも啓蒙主義の始まるころ、極端に偏った合理主義が、自然科学や哲学の分野に、急進的な姿勢をもたらしたことは、特に大きな原因です。結果として、信仰と理性の分裂によって、宗教だけでなく文化に及ぶまで取り返しのつかない損害をもたらされました。（…）信仰と理性は「人間の靈魂を、真理を黙想する高みに至らせる両翼」のようなものです。今必要なのは、信仰と理性の和解のために働きかけることです。（…）人間の理性は基本的に信頼できること、理性によって絶対的、決定的真理さえも知り得るということを、緊急に、再度断言すべきです。」

最後に教皇様はこう締めくくった。「今日学問は大きな挑戦に直面しています。科学技術の空前の発達によって浮かび上がってくる基本的な問題は、実験の限界、技術発展の意味や方向づけ、また、自然や自然環境の人為的操作の限界といったものです。こういった発達は、驚異の念とともに恐怖感も引き起こします。人間はかつてないほどに、自分自身の知性や自由が生み出したものに対してますます恐怖感を抱くようになっていきます。危険を感じているのです。したがって、世界は愛である創造主神からの賜物であり、被造物である人間は自然界を慎重に責任をもって支配し、無分別に自然を破壊すべきではないことはこれまでになく重要で今こそ思い出すべきことでもあります。」

● 9・5 正午のお告げの祈りに続いて、教皇様はお話しになった。「東ティモールに平和と一致の兆しが見えてくることを願っています。大変な苦しみに遭っている東ティモールの兄弟たちのために、どうか皆さんも共に祈ってください。この数日間に見られるティモールの人々の願いのために、おとめマリアの助けによって、人々が真の和解と前向きな関係を求めることができるようになりますように。」教皇様は後にも数回、東ティモールのために祈るようにと言われた。

● 9・8 一般謁見のカテケーシスの終わりに教皇ヨハネ・パウロは、マリア誕生の祝日についてお話しになった。

「若者の皆さん、この祝日は若さが単に成長の時期というだけでなく、意志と行動をみがくため、心にとって大切な時期であることを思い出させてくれます。」

「病気の方々や苦しんでいるみなさんにとって、この祝日は希望をもたらす日です。謙遜の人であるマリアは姉妹の優しさと母親としての心遣いを示しながら助けてくださいます。」

「結婚したばかりのみなさんは、新しい家族を作るという途方もない冒険を始めているわけです。マリアを見てください。この素晴らしい女性は喜んでみなさんの家に訪れ、楽しい時間を喜びで満たし、試練の時には慰めを与えてくださるでしょう。」

● 9・8 朝の一般謁見で、教皇様はお話しになった。旧約聖書で見られる罪の赦しが「人間の重荷を軽くせず、改心を必ず必要とするもののものであっても」、新約聖書で「神はイエスの言葉と行ないを通して赦しを表されます。罪をお赦しになるとき、イエスは御父の憐れみ深いみ顔を示してください。」

ヨハネ・パウロ2世は次のことをはっきりと示された。「『憐れみ深い父親』の話と呼ぶ方がふさわしく思われる『放蕩息子』のたとえ話は、最初に述べた新約聖書が示す罪の赦しと重ね合わせて考えることもできるでしょう。」

「父親から離れてしまおうという弟の決心は、家族の一致を露骨に拒否するものです。父親の家から離れて行く放蕩息子の行動は、罪の意味と恩知らずな反抗的態度をよく示しています。」兄は人間としての良識を表し、父親に異義を唱え、弟が受けるべき「当然の罰」を要求します。それにもかかわらず、父親が放蕩息子に会うために外に出て行き愛を示すことについて、教皇様は続けて話され、次のようにも言われました。「寛大に無条件に示される父親の愛情は律法に勝るものです。父親の愛は人間の理解を越え、二人の息子は再び父親との食事に招かれます。」

「たとえ話の憐れみ深い父親は、卓越した父親らしさと母親らしさを備えています。「家に戻る」という奇跡には、御父と人間、憐れみと惨めの出会いが見事に表されていると同時に、いなくなった息子を心配するだけでなく、全ての人々を心に留める無限の愛が示されています。」

「教皇様の聲」 ヨハネ・パウロ二世教皇の説教、書簡、講話等を解説なしにそのまま伝える月刊紙

■毎月10日発行 ■定価：送料とも一部186円 ■年内定期購読：送料とも一部2,087円（税込）

詳しくは、精道教育促進協会までお問い合わせ下さい。

財団法人■精道教育促進協会 〒659-0093兵庫県芦屋市船戸町12-6 TEL. 0797-31-3452・FAX. 0797-31-3448

振替口座：01130-8-72393 財団法人 精道教育促進協会